

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	豊川市児童発達相談センター			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月30日 ～ 令和7年2月18日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和7年1月30日 ～ 令和7年2月18日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の子どもに対し多職種により、多角的なアセスメントを行っていること	保育士、心理士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、保健師という多職種が支援に携わっています。子どもの発達状態に応じた支援を“どんな活動”を“どんな経験”で“どのように積み重ね”ていくのか、各職種がそれぞれの得意分野を活かし、アセスメント、実施、結果、評価を行い、総合的に支援を行っています。	多職種で連携を密にし、情報共有を行い、チームとして総合的な支援に取り組みます。 アセスメントから優先される課題抽出、具体的な到達目標、具体的な支援方法、結果の評価を行える体制を強化するため現在行っている支援会議の体制について改善を行っていきます。
2	関係機関との連携体制が整備されていること	当センターは豊川市子ども健康部所管であることから、母子保健分野、保育分野、障害福祉分野との関係性が深く、連携体制が整っています。そのため、障害児施策の情報が早期に入手可能であり、保育所との交流機会や移行時の情報共有への理解が得られやすく、切れ目なく支援が引き継げる体制の強化に取り組んでいます。	同年代の子どもと活動する機会を確保することは、インクルージョンの視点から重要な課題と考えます。市直営施設の利点を活かし、保育所等との交流の機会の拡充や子どもや保護者の希望に応じて、保育所等との併行利用について更なる啓発と検討を行っていきます。
3	集団活動と個別活動組み合わせた支援を行っていること	集団で社会性や協調性を経験できる活動と、個々のニーズに合わせ、多くの成功体験を得ることができる個別活動を組み合わせ、プログラムを立案しています。	個々の発達年齢や特性に合わせて、個別活動を増やしたり、数人の小集団での協同遊びを設定する集団活動の設定など柔軟なプログラムでの支援を行っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定期的に職員異動があるため、支援の継続を確保するための方策が必要なこと	当センター利用者は環境の変化に弱く、不安定になりやすい特性の子どもが多い現状があります。そのため支援の継続性の観点から、体制を大きく変化させず運営させることが好ましいと考えていますが、市直営施設のため、職員の異動があることから、異動時には慎重な対応が必要と考えます。	全職員が子ども全員を把握し、同じ支援が行えるよう、情報共有と支援技術の向上についての体制を強化します。 また、異動については、当センターでの経験年数を考慮し、複数人数が同時に異動とならないよう人事部門との調整を図っていきます。
2	既存施設を改修して利用しているため、設備的に使いづらい箇所がある。	当センターは既存施設を改修しています。そのため、面積は十分あるものの、発達支援室を始め、玄関、トイレなど専用施設ではないことから、一部使いづらい現状となっています。また、屋外遊技場がないため、屋外活動の機会が少なくなっています。	衝立などを利用して子どものわかりやすい構造化された環境設定を工夫していきます。 屋外活動の機会を増やすため、近隣の屋外遊具のある公園に行くプログラムを立案していきます。
3	保育所等やその他地域で他の子どもと活動する機会が少ない	現在、年2回の近隣保育園との交流日はありますが、回数が少ないこと、親子一緒での参加のため保護者が仕事等で交流参加ができない子どもがいることが課題となっています。	近隣保育所に交流機会の拡充をお願いするとともに、子どもだけで交流参加できる体制について検討を行っていきます。